弥生時代の大型土坑
–東海地域を中心として–

● 蔭山誠一

弥生時代の尾張地域の遺跡においてよくみられる大型土坑について、形態や埋土の特徴から、その機能の主体を生活道具類の廃棄と考え、遺跡中では居住域に多く、墓域に少ないことを明らかにした。さらに阿弥陀寺遺跡の事例から大型土坑が竪穴住居の周囲 10m 程の範囲に掘られ、被熱痕跡がある埋土の土坑が竪穴住居群の間の空閑地に多いことを推定した。また東海地域の弥生時代～古墳時代前期前半にかけての遺跡にみられる大型土坑についても分析し、尾張地域における占地と同様な特徴を確認した。東海地域では沖積微高地に立地する遺跡において多くの大型土坑が掘られ、弥生時代後期～古墳時代前期初頭の遺跡に少ない傾向を指摘した。

1　はじめに

尾張地域における弥生時代の集落遺跡を発掘調査すると、竪穴住居、掘立柱建物、井戸、方形集溝墓、環濠、土坑、溝など様々の形態をした遺構が検出できる。筆者は、近年当センターにおける発掘調査に携わる中で、比較的土器など遺物が多く出土し、阿弥陀寺遺跡の報告などにおいて焼土や炭、灰層を堆積する土坑として分析された大型土坑について、当地域の弥生時代集落を考える資料にならないだろうかという認識を抱いていた。

今回分析するような大型土坑は、1967 年に石野博信氏により弥生時代における貯蔵のための施設としてとりあげられた「貯蔵施設の三形態」である「屋内小土坑」、「屋外土坑」、「高床倉庫」の「屋外土坑」の一部に当たり、弥生時代の貯蔵施設について「中期以降の三者の実態を要約すれば、住居に接していくつかの屋外土坑が付設され、住居内には小土坑が、離れて集落の一画には高床倉庫が建てられるという形態をとる」としてまとめられた「屋外土坑」の恐らく大部分に当たるものと思われる。石野氏が当時全国で蓄積された弥生時代集落の調査事例を網羅して分析された労作であり、各地の屋外土坑についてその機能等にも追求された研究である（石野 1967）。今回の分析は貯蔵施設としての大型土坑ではないが、大型土坑の占地の結論は石野氏の屋外土坑の実態とされたものと同じものを想定しているものと考えられる。同様に弥生時代前半期の北部九州地域を中心に分布する袋状竪穴についても、弥生時代の貯蔵施設として武末純一氏が竪穴住居との関係から高床倉庫と推定される掘立柱建物との集落内における位置関係から分析を試みられている（武末 1991）。また弥生時代の北部九州地域に展開する墓域内にある「墓域縁土坑」について、多くの土器類が出土する類例から墓前における祭祀に関する分析がある（川上 1995）。

以上から考えると弥生時代の遺跡において、様々な形態をとり、広く展開する遺構として認識できる可能性が高いように思われる。そのために弥生時代における遺跡の分析・研究の中では、集落の広がりや変遷を考えるための材料にはなってきたが、個別の研究素材としてはあまりとりあげられてこなかったものといえるだろう。

よって本論では、弥生時代の東海地域における集落遺跡において、大型土坑がどのように展開するのか、立地との関係、時期的変遷、遺跡内における占地の特徴について検討したい。尚、本論では土坑の平面における長径が 1.0m 以上のものを主体に分析し、また長径 0.5m 以

上 1.0m 未満のものを中型土坑としてとりあげる（溝状の遺構は除く）。

2 大型土坑の特徴

まず、大型土坑の特徴について弥生時代の発掘資料が多く、遺跡立地等条件が均質な尾張地域における遺跡調査の事例をもとに考えたい（表 1）。

(1) 大型土坑の形態分類とその傾向

大型土坑の規模は、大きいもので長径が 10m を超し、短径においても 3m を超すものがあるが、全体的には短径が 1 m 前後であり、竪穴住居より小さい。遺構の深度は規模により様々であるが、30cm ～ 50cm 前後のものが多いように思われ、全体的には竪穴住居よりは深い遺構として検出される場合が多い。

形態に関しては、一色青海遺跡において平面の形態分類を、阿弥陀寺遺跡において埋土の分類がされている。この結果からは、土坑の使われ方には焼土と灰層・炭層が互層になるものや炭層が顕著にみられるもの、多量の土器が出土するもの、それらがあまりみられないものが存在することから、機能の違いを推定できるが、土坑の平面や断面形態との対応関係はあまり認められていない。また焼土と灰層・炭層のラミナ堆積が顕著に認められる土坑は、土坑内における火の利用も考えられるが、土坑内の壁面が被熱しているものはない。阿弥陀寺遺跡の報告に指摘があるように、集落遺跡の土坑の埋土は違いがあり分類は可能ではあるが、ほとんどの土坑に炭化物は含まれ、多くは程度の差とも考えられる。

よって当地域にみられる弥生時代の大型土坑の大部分は、井戸や土坑墓を除くと形態と埋土などの特徴から廃棄を主体とした性格のものといえる。

(2) 遺跡内における占地

今回対象にしている大型土坑の遺跡内における分布について考える。

居住域に分布する土坑

遺跡の居住域に展開する土坑の存在については、土坑自体が竪穴住居や掘立柱建物と同様、遺跡における居住域を構成する要素と考えられて分析されることもあるので、ほとんどの遺跡の居住域内にみられる。しかし、遺構の検出状況において重複が認められる大型土坑と竪穴住居・掘立柱建物等の建物遺構は、検出状況からは同時存在があり得ないものと考えられ、建物遺構との占地の関係の変化がみられるものといえる。

実際に竪穴住居と掘立柱建物が検出され、大型土坑が 10 基以上見つかっている遺跡には、弥生時代前期・中期前葉・中期中葉前半・中期中葉後半・中期後葉・後期・古墳時代前期の朝日遺跡、弥生時代前期頃の三ツ井遺跡、山中遺跡、弥生時代中期前葉～中期中葉の志賀公園遺跡、猫島遺跡、弥生時代中期中葉～中期後葉の阿弥陀寺遺跡、大渕遺跡、一色青海遺跡、勝川遺跡苗田地区、弥生時代後期末～古墳時代前期前半の廻間遺跡がある。厳密な時期分類ができていない朝日遺跡を除くと、ほぼ同一時期において多数の竪穴住居が検出されている猫島遺跡、阿弥陀寺遺跡、大渕遺跡、一色青海遺跡では竪穴住居と大型土坑の重複関係が比較的多くみられ、阿弥陀寺遺跡竪穴住居 SB28、猫島遺跡 00Aa 区竪穴住居 SB07 等のように 1 棟の竪穴住居に数基重複・隣接して分布するものがある。一方当然であるが、建物遺構の検出数が少ない遺跡では異なる時期と考えられる建物遺構とは重複がみられるが、ほぼ同一時期においては建物遺構と重複する大型土坑は比較的少なく、大型土坑は建物遺構の周囲 10m 程の範囲に分布する。ただし、猫島遺跡、阿弥陀寺遺跡、大渕遺跡、一色青海遺跡においても、ほぼ同一時期に分類される建物遺構との関係では、重複する大型土坑より、建物遺構の周囲に分布し重複しない大型土坑の方が多い。

以上の分析からは、大型土坑は竪穴住居等の建物遺構と重複する立地条件において遺跡内に占地し、遺構の検出状況から考えれば、竪穴住居等建物遺構が検出されない（検出できていない）部分（建物遺構の周囲の部分）からも検出される（検出できる）遺構の形態的条件をもつと同時に、相対的には竪穴住居等建物遺構の周囲（周囲 10m 程の範囲）に占地する条件を持

つものと考えられる。弥生時代中期後葉以後に多く検出される井戸は、朝日遺跡、一色青海遺跡、八王子遺跡、阿弥陀寺遺跡のように旧河道の際や谷状の窪地等、居住域の縁辺にみられ、建物遺構の周囲 10m の範囲より遠くに分布する傾向がある。また弥生時代中期の猫島遺跡、大渕遺跡、一色青海遺跡、阿弥陀寺遺跡のように竪穴住居とほぼ同数程度（それ以上の場合もある）、検出される状況がある。

墓域に分布する土坑

ここでは方形周溝墓・墳丘墓が分布する範囲を墓域と考え、その範囲内に分布する大型土坑を取り上げる。ほぼ同一時期において方形周溝墓・墳丘墓内およびその周辺に分布する大型土坑が検出されているのは、弥生時代前期頃の三ツ井遺跡、山中遺跡、弥生時代中期前葉〜中期中葉の猫島遺跡、志賀公園遺跡、弥生時代中期後葉の阿弥陀寺遺跡、一色青海遺跡、弥生時代後期の山中遺跡、古墳時代前期初頭の廻間遺跡、土田遺跡、西上免遺跡、弥生時代中期前葉〜古墳時代前期の朝日遺跡等がある。また土坑墓と考えられるものもある。この中で、明確に大型土坑と方形周溝墓・墳丘墓と重複関係が認められるのは、三ツ井遺跡、猫島遺跡、志賀公園遺跡、弥生時代後期の山中遺跡、古墳時代前期初頭の廻間遺跡、土田遺跡、西上免遺跡があり、弥生時代中期の志賀公園遺跡の一部、弥生時代後期の山中遺跡、朝日遺跡の一部のように方形周溝墓・墳丘墓内にある埋葬主体部に関係する土坑と土器棺に伴う土坑と考えられるものもあるが、ほぼ同一時期か近い時期において墓域と居住域が隣接する猫島遺跡、志賀公園遺跡、廻間遺跡等では、大型土坑が方形周溝墓・墳丘墓の周溝と重複している場合もあり、土坑の性格が必ずしも墓域に関連するものではない可能性がある。西上免遺跡の墳丘墓では大型土坑と墳丘墓に重複関係が認められるが、報告されているように墳丘墓に関連する祭祀等に伴う土坑の可能性がある。また阿弥陀寺遺跡、一色青海遺跡では大型土坑（ここでは井戸も含む）との重複はなく、井戸等が埋没しないまま居住域から墓域に変遷する状況を示している可能性が高い。弥生時代前期頃の三ツ井遺跡では方形周溝墓と報告される方形状に廻る溝があり、竪穴住居の周溝とも考えられるが、時期分類が不明であるので、居住域から墓域への変遷する状況を示しているものと考えておきたい。

以上の分析からは、方形周溝墓・墳丘墓の埋葬主体部に関係する土坑、土器棺に伴う土坑を除くと墓域に伴う大型土坑は少ないといえる。

(3) 大型土坑の占地からみた遺跡の復元

ここでは発掘調査報告において土坑埋土の分類が行われ、居住域が広く調査されている阿弥陀寺遺跡における弥生時代中期中葉前半の遺構配置について分析したい。阿弥陀寺遺跡のⅠ期とされる竪穴住居、掘立柱建物、大型・中型土坑、溝等の遺構を示したのが図１で、北東から南西にのびる尾根状微高地上全体に遺構が形成されていることがわかる。この中で、竪穴住居が地形の傾斜に沿って北東から南西に分布する４群に分かれることがわかる。大型・中型土坑は一部竪穴住居と重複するものがあるが、大きくは竪穴住居の周辺に分布することが分かる。興味深いことに、土坑の埋土Ａ類と分層された単一層からなり分層できない土坑は竪穴住居周辺に混在して分布するものが多く、埋土Ｃ類と分類された焼土と灰層・炭層が互層になるものや炭層が顕著にみられる大型・中型土坑は北１竪穴住居群と北２竪穴住居群の間の地点や北２竪穴住居群と南１竪穴住居群の間の地点、南１竪穴住居群と南２竪穴住居群の間になる地点を中心にやや集まって分布する傾向が見られ、埋土の状況が異なる二者がやや異なった地点に分布する。この状況から考えると、弥生時代中期中葉前半の阿弥陀寺遺跡の人々は、竪穴住居・掘立柱建物等建物遺構の周囲に大型土坑を掘り、さらに隣の竪穴住居群との境界部分（竪穴住居の周囲 10m 程のところ）に掘った大型土坑の中に焼土・灰層・炭層が埋まっていく（埋めた？）行為が行われた指向性が認められるのである。また大型土坑の中でも土器等の遺物が比較的顕著にみられるのは竪穴住居の近在のものであり、住居から離れるにつれて土器等の廃棄が少なくなる傾向がある様に思われる。

同様な状況は弥生時代中期後葉の一色青海遺跡 95Ca 区・95Cb 区・96A 区にもみられる。また、弥生時代中期中葉〜後葉の西上免遺跡に

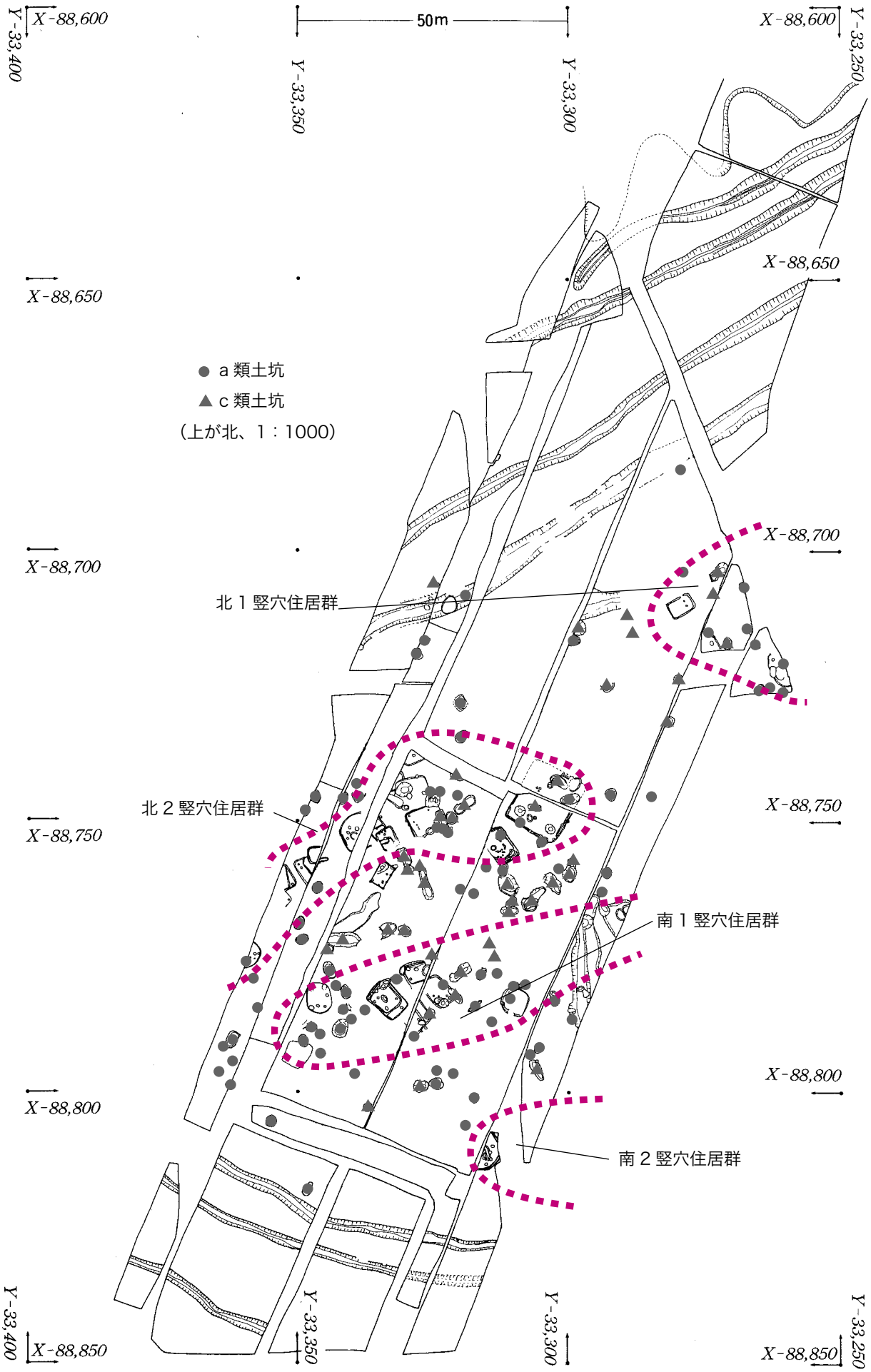

図 1　阿弥陀寺遺跡の大型土坑（弥生時代中期中葉前半）

おいて指摘されているように、地点により分布する土坑の特徴が異なる状況も同様な傾向を示しているのかもしれない。

3　東海地域における大型土坑の展開

それでは先に触れたような状況が、異なる条件（立地、地域等）の遺跡においてもみられるであろうか。弥生時代における東海地域の大型土坑の有無を検討したのが表１である。

（1）遺跡立地と時期的変遷

沖積微高地（氾濫原地帯、谷底平野、扇状地縁辺沖積微高地を含む）に立地する遺跡で大型土坑が10基以上検出されている遺跡は、愛知県では弥生時代前期の月縄手遺跡・山中遺跡・三ツ井遺跡、弥生時代前期・中期前葉・中期中葉前半・中期中葉後半・後葉・後期の朝日遺跡、弥生時代中期中葉後半・後期・古墳時代前期初頭の八王子遺跡、弥生時代中期前葉～中期中葉の志賀公園遺跡・猫島遺跡、弥生時代中期前葉～中期後葉の西上免遺跡、弥生時代中期中葉前半・中葉後半・中期後葉・後期の阿弥陀寺遺跡、弥生時代中期後葉の大渕遺跡・一色青海遺跡・勝川遺跡苗田地区、弥生時代後期～古墳時代前期初頭の山中遺跡、弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の廻間遺跡がある。三重県では弥生時代前期の村竹コノ遺跡、弥生時代中期前葉の蔵田遺跡、弥生時代中期後半の下川原遺跡、弥生時代後期の堀町遺跡がある。この他10基以上ある可能性が高い遺跡は弥生時代前期の愛知県松河戸遺跡、弥生時代中期の三重県納所遺跡がある。

洪積台地（丘陵、河岸段丘を含む）の遺跡では愛知県では弥生時代後期～古墳時代前期初頭の見晴台遺跡、三重県では、弥生時代中期前葉～中葉の東庄内Ｂ遺跡、弥生時代中期中葉前半の和遅野遺跡、弥生時代中期（中葉主体）の片野遺跡、弥生時代中期後葉の菟上遺跡・永井遺跡、弥生時代後期の堀町遺跡・小谷赤坂遺跡がある。この他10基以上ある可能性が高い遺跡は弥生時代中期中葉前半の三重県古里遺跡がある。

以上の弥生時代前期から古墳時代前期初頭の遺跡において、大型土坑の多くつくられる遺跡は沖積微高地に立地する遺跡に多く、洪積台地に立地する遺跡は少ない傾向がある。大型土坑の時間的変遷では、弥生時代前期には既に多く掘られており、以後弥生時代中期後葉の遺跡で多数検出されている。弥生時代後期～古墳時代初頭においては、先に分析した墓域に関連する山中遺跡、西上免遺跡、居住域に関連する廻間遺跡、朝日遺跡、八王子遺跡等、尾張地域の沖積地において比較的多数の大型土坑がみられるが、他の地域においては竪穴住居等の遺構のあり方から考えると大型土坑が少ない傾向がある。ただし、三重県辻子遺跡のように沖積地の遺跡や洪積台地に立地する弥生時代後期の環濠集落である小谷赤坂遺跡では比較的多くの大型土坑がみられ、異なる状況がある点は留意される。

（2）洪積台地上の弥生時代遺跡にみられる大型土坑

前節において、東海地域における弥生時代の大型土坑について、洪積台地上に立地する遺跡に少ない傾向を指摘した。この傾向は大きくは変わらないと思われるが、洪積台地上の遺跡においても沖積微高地上に立地する遺跡と同様に大型土坑が掘られることは重要である。

大型土坑の遺跡内における占地を検討すると、竪穴住居や掘立柱建物等の建物遺構と重複関係があるものは、弥生時代中期後葉の愛知県橋良遺跡において２基、弥生時代後期～古墳時代前期初頭の見晴台遺跡で数基、南山畑遺跡で１基、三重県では、弥生時代中期前葉～中葉の東庄内Ｂ遺跡で２基（1棟の竪穴住居に）、弥生時代中期後葉の菟上遺跡において５基(1m内外に隣接するものが８基)、弥生時代後期小谷赤坂遺跡において２基、古墳時代前期後半の三重県新畑遺跡において３基（竪穴住居２棟に）あるだけで、大型土坑は建物遺構の周囲に分布し、重複する例がある遺跡は比較的多数の竪穴住居が検出されている遺跡に限られる。また墓域との関連でも弥生時代中期(中葉主体)の片野遺跡において、時期は不明であるが方形周溝墓と重複する関係にある大型土坑の例があ

るのみで、先に触れた尾張地域の大型土坑の占地の傾向がより明瞭に確認できる。

形態的特徴を細かく分析できていないが、楕円形から隅丸長方形状の平面形態で断面丸底状の様々な形態をしており、規模も尾張地域の状況と類似するように思われる。

(3) 縄文時代晩期の遺跡にある大型土坑

弥生時代前期の東海地域において、すでに今回分析したような大型土坑が存在することは明らかで、縄文時代晩期にさかのぼって存在する可能性も高い。縄文時代後期〜晩期の岐阜県西田遺跡や愛知県三斗目遺跡、縄文時代晩期の三重県蛇亀橋遺跡では、今回の大型土坑に分類できる土坑が竪穴住居周辺に分布する傾向がみられる。一方、愛知県牛牧遺跡では竪穴住居の周辺に土坑墓とされる大型土坑が多数みられ、愛知県麻生田大橋遺跡では土器棺墓の分布と径1.0m 前後の平面円形状、断面やや袋状の形態が復元できる土坑が並行する時期に存在する状況が見られる。また三重県森添遺跡においては大型土坑が住居跡、配石遺構，焼土面などとともに多数あり、時期的変遷の多様さと同時に重複関係も多数みられる。

東海地域における縄文時代晩期の遺跡では、大型土坑が平面楕円形状断面丸底状のものと平面円形状断面袋状のものに大きく分類でき、前者は土坑墓と分類されるものが多く、居住域の内部から近在に分布する可能性がある。

4 まとめ

以上の分析において、東海地域弥生時代の遺跡における大型土坑の主に占地の状況について分析したが、遺跡の居住域内部において竪穴住居等建物遺構と分布するものの、竪穴住居との重複は少ないことは明らかで、竪穴住居を始めとする建物遺構が存在する地点が人間活動の拠点とするならば、大型土坑が分布する地点はその縁辺といえる。ここではさらに主に居住域に分布する大型土坑の特徴について、大型土坑の占地から朝日遺跡と蒐上遺跡を分析し、その補足をしてまとめとしたい。

(1) 大型土坑のない地点

朝日遺跡の南居住域において基盤砂層上に弥生時代の遺物包含層を堆積しない黒色土の堆積が確認される地点が数カ所ある。これらの部分は弥生時代の朝日遺跡において遺構の掘削が地中深くに及ばなかった地点であり、掘削されなかった可能性が高い場所である。既に指摘されているように遺跡南居住域を縦断する大溝等の土手状の遺構（堆積）が存在した可能性のために遺構が形成されなかった可能性もあるが、その他にもこのような地点が散在することから考えると、今回詳細な分析はできないが弥生時代の一定期間窪地であった可能性が高い地点と考えられる。したがって朝日遺跡の南居住域内の場合、竪穴住居を始めとする土坑（大型土坑から小柱穴まで）・溝などがどのような状態で変遷していったか細かな変遷をたどることは困難であるが、大型土坑が環濠に囲まれた居住域の内部においても、窪地状になる地点には分布せず、窪地の周辺に分布する状況がみられる。この状況は性質の異なる可能性があるが、弥生時代遺跡の集落外側の窪地・谷・後背湿地において大型土坑が分布しない状況と類似する。

また集落域が比較的広範囲に調査された弥生時代中期後葉の蒐上遺跡においては、居住域の状態が復元されており、大型掘立柱建物が検出された地点においてはあまり大型土坑が分布せず、反対に幅 20m 程の谷である ST802 の延長上にあたる窪地状になる地点にまとまった数の大型土坑が検出されており、周囲の丘陵微高地状に立地する竪穴住居群から周囲 10m 程の中に入る。一定の継続期間をもつ遺跡であり、細かな遺構変遷は不明であるが、報告書の分析においては、建物の規模・形態、出土遺物の分布も鑑み、大型竪穴住居と大型掘立柱建物を中心とする区域を「集落中枢部」と位置付け、谷 ST802 を囲む丘陵微高地の竪穴住居群を含む区域を「一般成員居住区・工房区」として役割分担が存在したことを指摘されている。先に述べた竪穴住居が形成される空間に大型土坑が少ない傾向のより明確に区分された状態を蒐上遺跡の大型竪穴住居と大型掘立柱建物が存在する周囲の地点において形成されていたものと考え

られる。

(2) 集落研究のための評価

以上の分析から導き出された大型土坑の占地のあり方を模式的にあらわしたのが図２である。居住域内部において竪穴住居の周囲 10m 程の範囲を中心に掘られ、隣接する竪穴住居群との中程に火の痕跡のある堆積物が埋まる行為が行われた。そして住居の周囲 20m の範囲でほとんどが掘られ、周縁やその外縁の大型土坑として掘られるものとして井戸や墓域の周縁にある土坑墓がある。このような状況が認められるならば、尾張地域の沖積微高地にみられる大型土坑が竪穴住居等と重複する地点が多い遺跡は、居住域における地点（役割の違う場所）の変換が行われた痕跡を残すものと考えられ、細かな遺跡変遷が究明できるならばより多様な遺構変遷が存在した可能性が高いものと考えられる。またこのような状況が沖積微高地に立地する尾張地域の弥生時代における集落構造の特徴ともいえないであろうか。一方で、洪積台地に立地する弥生時代の集落において、大型土坑が掘られない理由（単にゴミとなった遺物を集落外に持ち出すのか等）についても考えていく必要があるように思われる。今後の課題としたい。

本論を作成するにあたり、木野本和之氏・川北秀実・水野多栄氏のご教授、ご協力を得た。記して感謝の意としたい。

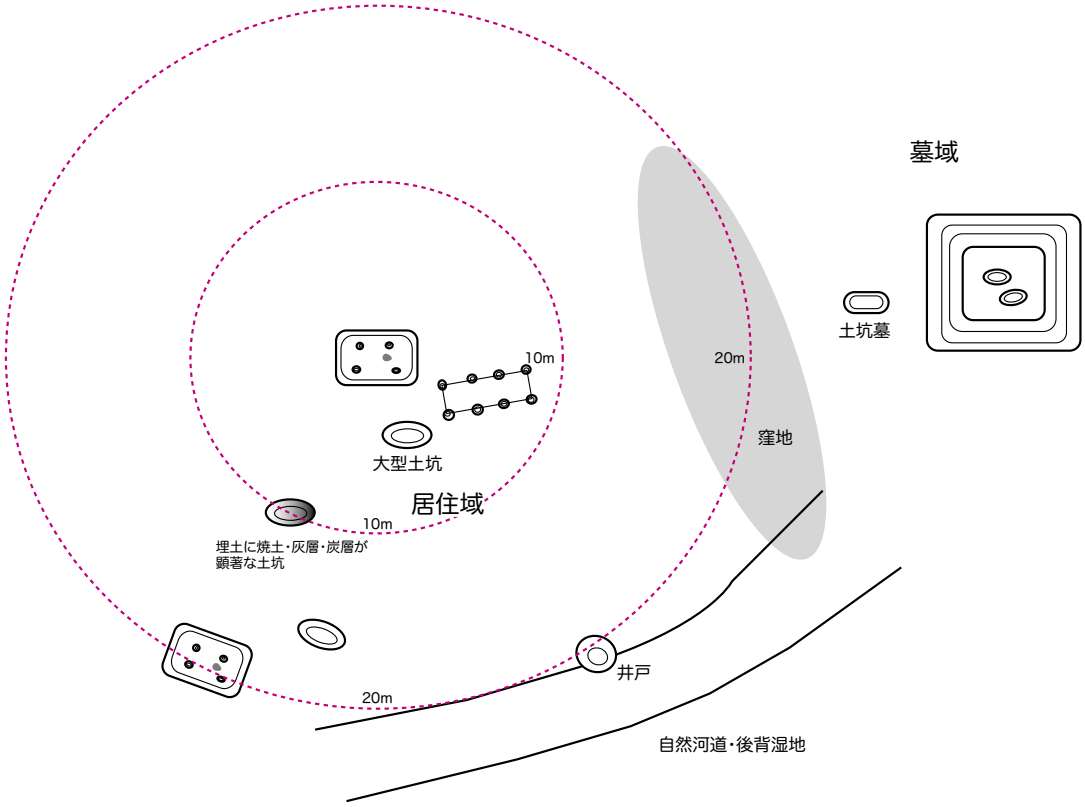

図２　弥生時代における大型土坑の占地

参考文献

本論では、報告書による遺跡事例の分析についての研究を取り上げていない。今後他地域における各遺跡の分析事例を検討していく必要があるものと思われる。尚、今回取り上げた報告書の引用文献は各遺跡の遺構データとともに表１において記述した。

石野博信 1967「貯蔵施設の貯蔵施設」『関西大学考古学研究年報 I』。
武末純一 1991「倉庫の管理主体ー北九州の弥生拠点集落例からー」『古文化論叢』児嶋隆人先生喜寿記念事業会。
川上洋一 1995「弥生時代の墓地における土器出土状況の分析ー北部九州と吉備を中心にしてー」『考古学研究』第 42 巻第２号、考古学研究会。

表１　東海地域における弥生時代の大型土坑

県名	市町村名	遺跡名	立地	調査面積(㎡)	時期	竪穴住居等	大型土坑	中型土坑	備考	文献
愛知県	一宮市	三ツ井遺跡	沖積微高地	12100	縄文時代後期	0棟（報告では）	1	4	大型土坑SK180竪穴住居に。中型土坑はSK180の周囲。	田中伸明・鬼頭剛編「三ツ井遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第87集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	豊田市	三斗目遺跡	洪積台地	約1300	縄文時代後期～晩期	竪穴住居1棟、炉５基、集積・配石遺構26基	約30		竪穴住居の北東5m～20m程の範囲に密集して分布する、南西側は希薄。	余合昭彦編1993「三斗目・三本松遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第47集』財団法人愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	名古屋市	牛牧遺跡	洪積台地	1250	縄文時代後期～晩期	竪穴住居1棟、土器棺墓43基	35基		遺跡の時期幅が大きく、大型土坑の大部分に土壙墓の可能性が指摘されている。	川添和暁編2001「牛牧遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第95集』財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
岐阜県	丹生川村	西田遺跡	洪積台地	約3800	縄文時代後期～晩期	竪穴住居20棟（平地式含む）	58	多数	大型土坑10基が住居と重複してる。その他は住居の周辺に分布する。	谷口和人編1997「西田遺跡」『岐阜県文化財保護センター調査報告書第29集』岐阜県土木部・財団法人岐阜県文化財保護センター
愛知県	名古屋市	見晴台遺跡　低地地区	洪積台地縁辺		縄文時代晩期		3			伊藤厚史・野口泰子1993「見晴台遺跡発掘調査報告書ー遺構編ー」名古屋市見晴台考古資料館
三重県	度会町	森添遺跡	河岸段丘中位面	約2000	縄文時代晩期	竪穴住居15棟	21	5	大型土坑でSK28は凹地。SK02と05は焼石多数出土。土坑は住居と隣接する位置に多いが、大型土坑は重複しているものが多い。他に焼土面40カ所、配石群6群。遺構の時間幅が大きい。	奥義次・御村靖治1988「森添遺跡発掘調査概報Ⅱ」度会町遺跡調査会
三重県	嬉野町	蛇亀橋遺跡A地区	低丘陵開谷内微高地	884	縄文時代晩期後半	竪穴住居2棟	1		他、大型の土坑25基程あり（遺構と報告されていない）。	新田洋1981「一志郡嬉野町蛇亀橋遺跡」『昭和56年度圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会
三重県	嬉野町	蛇亀橋遺跡B地区	低丘陵開谷内微高地	800	縄文時代晩期後半		土器棺墓3基			新田洋1981「一志郡嬉野町蛇亀橋遺跡」『昭和56年度圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会
愛知県	一宮市	三ツ井遺跡	沖積微高地	12100	縄文時代晩期末（～弥生時代初頭）	0棟	2以上（報告では6）	1	大型土坑は断面袋状のもの2～3基あり。中型土坑は石器埋納土坑として報告の2基の内1つ。	田中伸明・鬼頭剛編「三ツ井遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第87集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	豊川市	麻生田大橋遺跡	洪積台地	約9600	縄文時代晩期後半～弥生時代中期初頭	竪穴住居1棟、土器棺墓234基	32基以上		縄文時代晩期後半が主体、大型土坑の大部分は断面袋状荷なる円形土坑で。竪穴住居との重複はないが、土器棺墓とは混在している。	安井俊則編1991「麻生田大橋遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第21集』財団法人愛知県埋蔵文化財センター、前田清彦編1993「麻生田大橋遺跡発掘調査報告書」豊川市教育委員会
愛知県	名古屋市	月縄手遺跡	沖積微高地	185	弥生時代前期	0棟	12	1		松田訓・宮腰健司他1990「月縄手遺跡・貴生町遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第12集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	名古屋市	月縄手遺跡Ⅱ	沖積微高地	320	弥生時代前期	0棟	25	10		樋上昇編1994「貴生町遺跡Ⅱ・Ⅲ、月縄手遺跡Ⅱ」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第55集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	一宮市	八王子遺跡	沖積微高地	23740	弥生時代前期	竪穴住居3棟、区画溝、方形周溝墓状の溝あり	12	54		樋上昇編2001「八王子遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第92集』財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	稲沢市	野口北出遺跡	沖積微高地	1274	弥生時代前期	竪穴住居1棟	4以上	0		北條献示2000「野口・北出遺跡発掘調査報告書」稲沢市福祉保健部・稲沢市内遺跡発掘調査委員会
三重県	松阪市	鐘空遺跡	河岸段丘	約1000	弥生時代前期	竪穴住居1棟	0	1	中型土坑は住居と重複しない。	下村登良男編1981「鐘空遺跡発掘調査報告書」『松阪市文化財調査報告5－3』松阪市教育委員会
三重県	松阪市	上寺遺跡	河岸段丘	約5500	弥生時代前期	竪穴住居1棟	6	0		下村登良男編1981「上寺遺跡発掘調査報告書」『松阪市文化財調査報告5－2』松阪市教育委員会
三重県	松阪市	小谷赤坂遺跡(第8次)	丘陵上	2560	弥生時代前期	平地式住居2棟？	3	2	大型土坑はSH526内周囲に隣接する。	伊藤裕偉編2005「天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告VII」『三重県埋蔵文化財調査報告260』三重県埋蔵文化財センター
三重県	松阪市	小谷赤坂遺跡(第6次・7次)	丘陵上	3100	弥生時代前期	0棟	2			伊藤裕偉編2005「天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告VI」『三重県埋蔵文化財調査報告259』三重県埋蔵文化財センター
三重県	四日市市	大谷遺跡	洪積台地	約2700	弥生時代前期	竪穴住居2棟、掘立柱建物か、ピット群あり	3	1	土坑と住居は重複しない。他に環濠上に炉址6基。	小玉道明他1966「大谷遺跡発掘調査報告書ーA地区・B地区ー」『四日市市埋蔵文化財調査報告2』四日市市教育委員会・四日市遺跡を守る会、小玉道明1976「大谷遺跡発掘調査報告Ⅱ―C地区の遺構ー」『四日市市埋蔵文化財調査報告11』四日市市教育委員会、伊藤洋1977「大谷遺跡発掘調査報告Ⅲ―C地区の遺物ー」『四日市市埋蔵文化財調査報告14』四日市市教育委員会
三重県	三雲町	中之庄遺跡	三角州	3000	弥生時代前期	方形住居址1棟（SK13）	2以上			谷本鋭次1972「中之庄遺跡発掘調査報告10」三重県教育委員会
三重県	四日市市	永井遺跡	台地上	約2800	弥生時代前期	0棟	1～5基	0	大型土坑はSD02の北側。やや浅い。	小玉道明他1973「永井遺跡発掘調査報告」四日市市教育委員会
愛知県	一宮市	三ツ井遺跡	沖積微高地	12100	弥生時代前期～	竪穴住居5棟以上、方形周溝墓3～4基か、水田遺構	53以上	4以上	居住域・墓域とされる地点に重複して分布。切り合いもあり。	田中伸明・鬼頭剛編「三ツ井遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第87集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	一宮市	山中遺跡	沖積微高地	4800（4次と5次併せて）	弥生時代前期1	0棟	2	1		服部信博編1992「山中遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第40集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	一宮市	山中遺跡	沖積微高地	4800（4次と5次併せて）	弥生時代前期2	竪穴住居19棟、方形周溝墓9基（住居と墓は環濠挟んで分布する）	10	5	大型土坑は、方形周溝墓に隣接して3基、住居に隣接して2基、環濠付近に4基ある。住居に重複する可能性があるのはSK31のみ。中型のSK39はSB19内の土坑で、横刃形石器と礫が埋納されている。中型土坑・小型土坑（Pit）は住居と重複・接する住居において検出されている。	服部信博編1992「山中遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第40集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
三重県	玉城町	仲垣内遺跡	丘陵の裾部	400	弥生時代前期後半	0棟	1	0		三重県教育委員会1979「度会郡玉城町仲垣内遺跡」『昭和48年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財報告』
三重県	松阪市	村竹コノ遺跡　第3次	沖積微高地	1500	弥生時代前期後半	0棟	23	1	北側に環濠がめぐる外側　竪穴住居と重複もあり、混在。住居の重複は少ない。竪穴住居8の周囲はピットも多く、土坑も混在。大型土坑は後期のものもある可能性あり。土坑内に小ピットが多数あり、内側に向いており、木材が出土する部分あり。木杭が立てられていた？	三重県埋蔵文化財センター2005『一般国道42号バイパス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター 三重県埋蔵文化財センター2005「村竹コノ遺跡（第3次）発掘調査現地説明会資料」三重県埋蔵文化財センター
三重県	明和町	金剛坂遺跡	河岸段丘縁辺	約900	弥生時代前期新段階	0棟	2	0		山沢義貴・谷本鋭次1971「金剛坂遺跡発掘調査報告」明和町教育委員会
三重県	玉城町	上の山遺跡	低位丘陵上	約2400	弥生時代前期新段階	竪穴住居1棟	0			上村安生1992「上の山遺跡発掘調査報告」『三重県埋蔵文化財調査報告103』三重県埋蔵文化財センター
愛知県	甚目寺町	阿弥陀寺遺跡	沖積微高地	約15000	弥生時代中期前葉	竪穴住居36棟、掘立柱建物1棟、溝7条	86	7		石黒立人編1990「阿弥陀寺遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第11集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	一宮市	八王子遺跡	沖積微高地	23740	弥生時代中期前葉	区画溝あるか	3	不明		樋上昇編2001「八王子遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第92集』財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	清洲町他	朝日遺跡	沖積微高地	約50000	弥生時代中期前葉	竪穴住居4棟(西部)＋44棟(南部)＋15棟(東部)＋5棟(北部)、掘立柱建物2棟(東部)	1 (西部) 47 (南部) 4 (東部) 3 (北部)	0 (西部) 16 (南部) 0 (東部) 0 (北部)	規模不明土坑が、33(南部)＋1(北部)。	石黒立人編1991「朝日遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第30集』財団法人愛知県埋蔵文化財センター

県名	市町村名	遺跡名	立地	調査面積（㎡）	時期	竪穴住居等	大型土坑	中型土坑	備考	文献
三重県	安濃町	平田遺跡　西支群	丘陵上		弥生時代中期前葉	竪穴住居3棟	3		大型土坑が竪穴住居と重複する。	伊藤英晃・竹内英昭1987『平田遺跡群』安濃町遺跡調査会
三重県	津市	蔵田遺跡	沖積地	15710	弥生時代中期前葉	掘立柱建物14棟、柱列4列、方形周溝墓1基	11	不明	大型土坑の内1基は土坑墓の可能性あり。掘立柱建物と重複するもの2基。他は建物周囲5～20mの範囲にある。	米山浩之・宮田勝功他1999「蔵田遺跡発掘調査報告」『三重県埋蔵文化財調査報告115－13』三重県埋蔵文化財センター
愛知県	名古屋市	名古屋城三の丸遺跡I	洪積台地	9000	弥生時代中期前半	竪穴住居7棟	1以上			梅本博志編1990「名古屋城三の丸遺跡（I）」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第15集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
三重県	伊勢市	中ノ垣外遺跡	河岸段丘低位面	約7000	弥生時代中期前半	竪穴住居2棟	0	0		髙見宣雄・岩中淳「伊勢市佐八町中ノ垣外遺跡」三重県教育委員会
愛知県	一宮市	猫島遺跡	扇状地末端、沖積微高地	約32000	弥生時代中期前葉～中期中葉	竪穴住居30棟、掘立柱建物2棟、方形周溝墓15基、溝5条、柵列8	37以上	－	大型土坑は土壙墓と報告されるものを含む。竪穴住居との重複あり。方形周溝墓との重複では方形周溝墓の周溝に切られている。	洲嵜和宏編2003「猫島遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第107集』財団法人　愛知県教育サービスセンター　愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	名古屋市	志賀公園遺跡	沖積微高地	14200（97E区1200）	弥生時代中期前葉～中期中葉	竪穴住居2棟、掘立柱建物3棟、方形周溝墓6基	17	8	大型土坑の内1基はSZ04・05の内部主体。大型土坑は竪穴住居の周辺と方形周溝墓と重複している。	永井宏幸編2001「志賀公園遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第90集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	名古屋市	志賀公園遺跡	沖積微高地	14200（98J区900）	弥生時代中期前葉～中期中葉	竪穴住居5棟、掘立柱建物4棟、方形周溝墓12基、溝2条	17	31	竪穴住居と方形周溝墓と混在。	永井宏幸編2001「志賀公園遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第90集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	一宮市	八王子遺跡	沖積微高地	23740	弥生時代中期前葉～中期中葉	竪穴住居2棟、溝3条	1	不明		樋上昇編2001「八王子遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第92集』財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
三重県	鈴鹿市	東庄内B遺跡	洪積台地	16125	弥生時代中期前葉～中期中葉	竪穴住居8棟、土器棺墓1基、方形周溝墓5基	1	0	SB55とSB35には時代不明である土坑が重複する。	小玉道明他1970「東庄内B遺跡」『東名阪道路埋蔵文化財調査報告』日本道路公団名古屋支社・三重県教育委員会
愛知県	甚目寺町	阿弥陀寺遺跡	沖積微高地	約15000	弥生時代中期中葉	竪穴住居43棟、溝1条	72	17		石黒立人編1990「阿弥陀寺遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第11集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	一宮市	八王子遺跡	沖積微高地	23740	弥生時代中期中葉前半	竪穴住居9棟	12	48	土坑は中期後葉を含む可能性あり	樋上昇編2001「八王子遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第92集』財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	稲沢市	野口北出遺跡	沖積微高地	1274	弥生時代中期中葉前半	0棟、方形周溝墓7基	6以上	0		北條献示2000「野口・北出遺跡発掘調査報告書」稲沢市福祉保健部・稲沢市内遺跡発掘調査委員会
愛知県	清洲町他	朝日遺跡	沖積微高地	約50000	弥生時代中期中葉前半	竪穴住居18棟(南部)	5 (西部) 106(南部) 2 (東部) 8 (北部)	1 (西部) 38 (南部) 0 (東部) 0 (北部)	規模不明土坑が、1(西部)＋51(南部)＋1(東部)＋7(北部)。	石黒立人編1991「朝日遺跡I」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第30集』財団法人愛知県埋蔵文化財センター
三重県	白山町	和遅野遺跡	河岸段丘縁辺	288	弥生時代中期中葉前半	竪穴住居3棟	20	1以上	大型土坑は溝SD13・18を含む。竪穴住居と重複しない。周辺に分布。	稲生進一1975「和遅野遺跡発掘調査報告」白山町教育委員会
三重県	明和町	古里遺跡C地区	洪積台地	約3000	弥生時代中期中葉前半	竪穴住居2棟（円形と方形）	8以上	0		山沢義貴他1973「古里遺跡発掘調査報告ーC地区ー」『三重県埋蔵文化財調査報告17』三重県教育委員会
愛知県	甚目寺町	森南遺跡	沖積微高地	1950（E～H区のみ）	弥生時代中期中葉前半 弥生時代中期中葉後半	E区　竪穴住居5棟（中葉）	3（E区）		大型土坑は中期中葉。2基は住居と重複している。	長島広・安藤義弘・加藤安信1990「森南遺跡発掘調査報告書」「甚目寺町文化財調査報告II」愛知県海部郡甚目寺町教育委員会
愛知県	清洲町他	朝日遺跡	沖積微高地	約50000	弥生時代中期中葉	竪穴住居41棟(南部)＋1棟(北部)	14 (西部) 37 (南部) 0 (東部) 2 (北部)	3 (西部) 32 (南部) 0 (東部) 7 (北部)	規模不明土坑が、3(西部)＋26(南部)＋2(東部)＋1(北部)。	石黒立人編1991「朝日遺跡I」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第30集』財団法人愛知県埋蔵文化財センター
岐阜県	美濃加茂市	牧野小山遺跡	河岸段丘	1500	弥生時代中期中葉	竪穴住居12棟	4	不明		紅村弘他1973「牧野小山遺跡」岐阜県教育委員会・美濃加茂市教育委員会
三重県	松阪市	上寺遺跡	河岸段丘	約5500	弥生時代中期中葉	竪穴住居1棟	1	0		下村登良男編1981「上寺遺跡発掘調査報告書」『松阪市文化財調査報告5－2』松阪市教育委員会
三重県	明和町	金剛坂遺跡	河岸段丘縁辺	約900	弥生時代中期中葉	方形周溝墓2基	1	0		山沢義貴・谷本鋭次1971「金剛坂遺跡発掘調査報告」明和町教育委員会
三重県	鈴鹿市	東庄内A遺跡	洪積台地	約2680	弥生時代中期中葉	竪穴住居1棟	0	0		小玉道明他1970「東庄内A遺跡」『東名阪道路埋蔵文化財調査報告』日本道路公団名古屋支社・三重県教育委員会
三重県	名張市	櫃・柏原遺跡E地区6区	扇状地	200	弥生時代中期中葉	竪穴住居1棟	1		大型土坑は住居の西15m、重複しない。	田阪仁「名張市赤目町櫃・柏原遺跡」三重県教育委員会
愛知県	清洲町他	朝日遺跡	沖積微高地	約50000	弥生時代中期中葉後半	竪穴住居20棟(南部)＋6棟(北部)	1 (西部) 88 (南部) 1 (東部) 4 (北部)	0 (西部) 26 (南部) 0 (東部) 2 (北部)	規模不明土坑が、34(南部)＋2(北部)。	石黒立人編1991「朝日遺跡I」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第30集』財団法人愛知県埋蔵文化財センター
三重県	玉城町	上地山遺跡	上位段丘面微高地	920	弥生時代中期中葉後半	竪穴住居4棟（円形2、方形2）	4	2	土坑は住居の周辺にある。重複しない。	奥義次1985「上地山遺跡発掘調査報告書」玉城町教育委員会
愛知県	豊田市	川原遺跡	沖積微高地	12500	弥生時代中期中葉後半～中期後葉	方形周溝墓12基、土器棺3基、土壙墓35基	14以上		大型土坑は方形周溝墓群の間に分布する。ほとんど重複しない。中小の土坑300基程。	服部信博・赤塚次郎・鬼頭剛・堀木真美子編2001「川原遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第91集』財団法人　愛知県教育サービスセンター　愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	名古屋市	志賀公園遺跡	沖積微高地	14200（98I区1000）	弥生時代中期中葉～中期後葉	掘立柱建物1棟、方形周溝墓13基	7	4	大型土坑の内3基は方形周溝墓の内部主体の可能性があり、2基は方形周溝墓の溝の可能性あり。中型土坑は掘立柱建物の周辺にある。	永井宏幸編2001「志賀公園遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第90集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	尾西市	西上免遺跡	沖積微高地	10568	弥生時代中期中葉～中期後葉	0棟	13	5	大型土坑は土器集積2基を含む。	赤塚次郎編1997「西上免遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第73集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
三重県	鈴鹿市	起遺跡	低位段丘縁辺	4500	弥生時代中期中葉～中期後葉	竪穴住居11棟、掘立柱建物1棟			土坑も多数あるが不明。重複していない。	森前稔1983「鈴鹿市安塚町起A遺跡」『昭和57年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』
三重県	名張市	御所垣内遺跡	丘陵	約2000	弥生時代中期中葉～中期後葉主体	竪穴住居4棟	4		大型土坑の内2基は土壙墓とされている可能性高い。竪穴住居と重複しない。隣接して分布する。	水口昌也・門田了三1984「御所垣内遺跡」名張市教育委員会
三重県	津市	亀井遺跡	河道自然堤防微高地	試掘グリッドNo.15	弥生時代中期後半	0棟	2			谷本鋭次1973「津市河辺町・亀井遺跡」『昭和47年度県営圃場整備地域埋蔵文化財調査報告4』三重県教育委員会
愛知県	甚目寺町	大渕遺跡	沖積微高地	約10000	弥生時代中期後半	竪穴住居52棟、方形区画遺構SX01、井戸3基	49	0	大型土坑は竪穴住居の周辺に多いが重複もあり（17基）。南側方形区画遺構SX01とは重複しない。	宮腰健司編1991「大渕遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第18集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	春日井市	勝川遺跡　上屋敷地区			弥生時代中期後半	方形周溝墓22基	2		大型土坑は方形周溝墓とは重複していない。	赤塚次郎編1984「勝川」『愛知県教育サービスセンター埋蔵文化財調査報告書第1集』財団法人愛知県教育サービスセンター、松原隆治編1988「勝川遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第3集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター、松原隆治編1992「勝川遺跡II」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第19集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター、樋上昇編1992「勝川遺跡IV」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第29集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	春日井市	勝川遺跡　南東山地区			弥生時代中期後半	なし	1		大型土坑SK594	

県名	市町村名	遺跡名	立地	調査面積(㎡)	時期	竪穴住居等	大型土坑	中型土坑	備考	文献
愛知県	春日井市	勝川遺跡　苗田地区			弥生時代中期後半	掘立柱建物29棟	20	3	大型土坑の内3基建物と重複する。他は建物の周辺10m内。溝と連続するもの1基。木製品の貯蔵用とされるものあり。	埋蔵文化財センター調査報告書第19集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター、樋上昇編1992「勝川遺跡Ⅳ」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第29集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
三重県	名張市	下川原遺跡	沖積地、旧河道自然堤防状の微高地	700	弥生時代中期後半	竪穴住居4棟以上（方形。新しい傾向）	19	1	大型土坑の内2基は住居状土坑。竪穴住居内のもの（10基位）は含まず。大型土坑と竪穴住居（SB11のみ）の切り合いは3カ所。1基は住居状のもの、1基は方形周溝墓の溝状のもの。他に重複はない。住居の周辺10m位に存在する状況を示す。	門田了三1986「下川原遺跡」名張市遺跡調査会
三重県	玉城町	上の山遺跡	低位丘陵上	約2400	弥生時代中期後半	方形周溝墓2基、溝1条	0			上村安生1992「上の山遺跡発掘調査報告」『三重県埋蔵文化財調査報告103』三重県埋蔵文化財センター
愛知県	豊橋市	橋良遺跡　1次・2次	河岸段丘低位面	1020	弥生時代中期後葉	竪穴住居21棟、方形周溝墓2基	4	0	大型土坑の内SK01は竪穴住居の入口状のもの、SK02とSK03は竪穴住居と重複している。その他は住居に隣接する。居住域内の土坑とSK02は時多量出土。全体に深さ30cm内外で浅い。	小林久彦・水野季彦1994「橋良遺跡」『豊橋市埋蔵文化財調査報告第18集』豊橋市教育委員会
愛知県	豊田市	高橋遺跡(第4次)	洪積台地	3240	弥生時代中期後葉	竪穴住居1棟	0	0		久永春男・斎藤嘉彦他1969「高橋遺跡」豊田市教育委員会
愛知県	名古屋市	高蔵遺跡(第34次・第39次)	洪積台地	3700	弥生時代中期後葉	竪穴住居2棟	0	0		村木誠編2003「埋蔵文化財調査報告書46高蔵遺跡(第34次・第39次)」『名古屋市文化財調査報告60』名古屋市教育委員会
愛知県	知立市	天神遺跡A地区	洪積台地	530	弥生時代中期後葉	竪穴住居5棟（SX01は含まず）	0	0		岡本茂史編1986『知立市西中遺跡群発掘調査報告書　天神遺跡（A・B）』知立市教育委員会
愛知県	知立市	天神遺跡B地区	洪積台地	1520	弥生時代中期後葉	竪穴住居2棟、樫王式の土器棺墓1基	0	1	中型土坑は深さ30cm。竪穴住居と重複しない。	岡本茂史他1987『知立市西中遺跡群発掘調査報告書Ⅱ』知立市教育委員会
愛知県	知立市	荒新切遺跡A区	洪積台地	600	弥生時代中期後葉	竪穴住居3棟、掘立柱建物2棟			土坑は大小80基、この内弥生時代の土坑は中型土坑1基。	岡本茂史他1988『知立市西中遺跡群発掘調査報告書Ⅲ　荒新切遺跡(I)』知立市教育委員会
愛知県	甚目寺町	阿弥陀寺遺跡	沖積微高地	約15000	弥生時代中期後葉	竪穴住居5棟、方形周溝墓3基	81	8	大型土坑は井戸6基含む。	石黒立人編1990「阿弥陀寺遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第11集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	稲沢市	一色青海遺跡	沖積微高地	約20600	弥生時代中期後葉	竪穴住居94棟、掘立柱建物6棟、方形周溝墓25基、柵1基、溝32条、旧河道9条	90	7	大型土坑は井戸1基含む。10期の遺構変遷の内2時期に竪穴住居との重複が多い。	籏山誠一・鬼頭剛・堀木真美子1998「一色青海遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第79集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	一宮市	八王子遺跡	沖積微高地	23740	弥生時代中期後葉	竪穴住居6棟、方形周溝墓9基	7	不明	大型土坑の内4基は方形周溝墓の主体部	樋上昇編2001「八王子遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第92集』財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	稲沢市	大塚遺跡	沖積微高地	410	弥生時代中期後葉	0棟	25	20		北條献示2004「大塚遺跡発掘調査報告書」稲沢市都市開発部・稲沢市内遺跡発掘調査委員会
愛知県	豊田市	川原遺跡	沖積微高地	12500	弥生時代中期後葉	竪穴住居294棟、方形周溝墓2基、土器棺6基	10		大型土坑の内8基が竪穴住居と重複しているが、居住域の中央部にはない。縁辺が多い。	服部信博・赤塚次郎・鬼頭剛・堀木真美子編2001「川原遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第91集』財団法人　愛知県教育サービスセンター　愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	清洲町他	朝日遺跡	沖積微高地	約50000	弥生時代中期後葉	竪穴住居72棟(南部)＋1棟(東部)、掘立柱建物1棟(東部)	0 (西部) 176(南部) 4 (東部) 2 (北部)	0 (西部) 56 (南部) 0 (東部) 0 (北部)	規模不明土坑が、88(南部)＋1(北部)。	石黒立人編1991「朝日遺跡Ⅰ」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第30集』財団法人愛知県埋蔵文化財センター
岐阜県	岐阜市	寺田遺跡	低位段丘微高地	約5500	弥生時代中期後葉	掘立柱建物21棟	6以上	1以上	土坑は全部で20基程。掘立柱建物と分布が重複する。	吉田英敏他1987「寺田・日野1」岐阜市教育委員会
三重県	四日市市	上野遺跡	河岸段丘	3496	弥生時代中期後葉	竪穴住居24棟	0	2		春日井恒1991「上野遺跡」『四日市市遺跡調査会文化財調査報告書Ⅵ』四日市市遺跡調査会
三重県	四日市市	上野遺跡2	河岸段丘	1982	弥生時代中期後葉	竪穴住居3棟、掘立柱建物2棟、方形周溝墓1基	0	3	中型土坑の内2基は住居内の「貯蔵穴」。1基は土器棺墓か。	春日井恒1992「上野遺跡2」『四日市市遺跡調査会文化財調査報告書Ⅸ』四日市市遺跡調査会
三重県	白山町	大角遺跡	河岸段丘縁辺	200	弥生時代中期後葉	竪穴住居2棟	0	1		本堂弘之1985「大角遺跡発掘調査報告」『白山町埋蔵文化財調査報告Ⅱ』白山町教育委員会
三重県	四日市市	菟上遺跡	丘陵	36718	弥生時代中期後葉	竪穴住居126棟、掘立柱建物33棟、方形周溝墓3基	78	64	竪穴住居の重複は最大5棟。大型土坑はST802の上側微高地部に集中する。ST802延長部の幅20m程。竪穴住居・掘立柱建物の周囲10m内にほとんどが入る。建物と重複している大型土坑は5基、隣接するもの8基（1m内外）。基本的には重複しない。中型土坑は住居内に比較的多い。	穂積裕昌・角正淳子「菟上遺跡発掘調査報告」『三重県埋蔵文化財調査報告227－7』三重県埋蔵文化財センター
三重県	津市	長遺跡	丘陵上	3700	弥生時代中期後葉	竪穴住居57棟、掘立柱建物10棟、柱列7条	1		大型土坑は竪穴住居柱穴を含まない。土坑は柱穴を含めて多数。ほとんど重複していない。住居に隣接する。	池端清行2000「長遺跡発掘調査報告」『三重県埋蔵文化財調査報告227－6』三重県埋蔵文化財センター
三重県	津市	山籠遺跡	丘陵上	1100	弥生時代中期後葉	竪穴住居10棟	4		大型土坑は竪穴住居と重複していないが隣接する。	中村光司・穂積裕昌他1995「大古覚遺跡・山籠遺跡・宮ノ前遺跡発掘調査報告」『三重県埋蔵文化財調査報告115－4』三重県埋蔵文化財センター
三重県	津市	長遺跡　1次（津市）	丘陵上	約750	弥生時代中期後葉	竪穴住居13棟	0			萱室康光1989「長遺跡発掘調査報告」津市教育委員会
三重県	玉城町	仲垣内遺跡	丘陵の裾部	400	弥生時代中期後葉	竪穴住居1棟	0	0		三重県教育委員会1979「度会郡玉城町仲垣内遺跡」『昭和48年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財調査報告』
三重県	四日市市	永井遺跡	台地上	約2800	弥生時代中期後葉	0棟（いくつかありそう）、方形周溝墓2基（北側）	13以上	0	大型土坑は方形周溝墓の南側に展開する。方形周溝墓に隣接するものもある。	小玉道明他1973「永井遺跡発掘調査報告」四日市市教育委員会
三重県	名張市	辻垣戸遺跡E地区	沖積微高地	600	弥生時代中期後葉	竪穴住居1棟	不明　0基		やや離れているC地区には弥生時代中期土坑あり。	中村信裕「名張市赤目町辻垣戸遺跡・上東野遺跡」
三重県	三雲町	中之庄遺跡	三角州	3000	弥生時代中期	土坑とされているものを含めて方形周溝墓が存在	2以上			谷本鋭次1972「中之庄遺跡発掘調査報告10」三重県教育委員会
三重県	津市	納所遺跡	沖積微高地	12500	弥生時代中期	竪穴住居15棟以上、方形周溝墓5基	14		大型土坑は土壙墓として報告されている。土坑は大小2000基程。	伊藤久嗣・吉水康夫1980「納所遺跡ー遺構と遺物ー」三重県教育委員会
三重県	一志町	片野遺跡	河岸段丘中位面	4430	弥生時代中期（中期中葉が主体）	竪穴住居6棟（中葉新段階）、方形周溝墓3基	16	3	竪穴住居の内1棟は方形周溝墓のSDか。大型土坑の内5基は方形周溝墓のSDとした。大型土坑と竪穴住居と重複はしない。周辺に展開。むしろ方形周溝墓と分布上重複する。	河瀬信幸1985「片野遺跡発掘調査報告」『三重県埋蔵文化財調査報告69』三重県教育委員会
愛知県	甚目寺町	森南遺跡	沖積微高地	1950（E～H区のみ）	弥生時代中期後葉 弥生時代後期	G区　竪穴住居7棟	4（G区） 2（F区）		大型土坑はG区が中期後葉1基、後期3基、F区が中期後葉2基。G区で中期後葉の井戸1基。G区は住居と重複していない。	長島広・安藤義弘・加藤安信1990「森南遺跡発掘調査報告書」「甚目寺町文化財調査報告Ⅱ」愛知県海部郡甚目寺町教育委員会

県名	市町村名	遺跡名	立地	調査面積(㎡)	時期	竪穴住居等	大型土坑	中型土坑	備考	文献
愛知県	名古屋市	名古屋城三の丸遺跡I	洪積台地	9000	弥生時代後期	方形周溝墓1基	58		弥生時代中期～古代までの土坑100基の内大型土坑58基	梅本博志編1990「名古屋城三の丸遺跡（I）」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第15集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	豊田市	高橋遺跡(第1次～第3次)	洪積台地		弥生時代後期	竪穴住居4棟	0		中型土坑で竪穴住居の貯蔵穴がある。	豊田市郷土資料館編1971「高橋遺跡」豊田市教育委員会
愛知県	豊田市	高橋遺跡(第4次)	洪積台地	3240	弥生時代後期	竪穴住居10棟（特殊遺構第2号を含む）	0		中型土坑で竪穴住居の貯蔵穴がある。	久永春男・斎藤嘉彦他1969「高橋遺跡」豊田市教育委員会
愛知県	豊田市	高橋遺跡(第6次)	洪積台地	660	弥生時代後期	竪穴住居4棟	0		中型土坑で竪穴住居の貯蔵穴がある。	豊田市郷土資料館・豊田市郷土史研究会編1976「高橋遺跡第六次調査概報」『豊田市郷土資料館報告11』豊田市教育委員会
愛知県	豊田市	高橋遺跡(第7次)	洪積台地	1800	弥生時代後期	竪穴住居6棟以上	0		中型土坑で竪穴住居の貯蔵穴がある。	松井孝宗1977「高橋遺跡第七次発掘調査概報」『豊田市郷土資料館報告12』豊田市教育委員会・豊田市郷土史研究会
愛知県	豊田市	高橋遺跡(第8次)	洪積台地	1390	弥生時代後期	竪穴住居8棟以上	0		中型土坑で竪穴住居の貯蔵穴がある。	松井孝宗1978「高橋遺跡第八次発掘調査概報」『豊田市郷土資料館報告15』豊田市教育委員会
愛知県	名古屋市	高蔵遺跡(第34次・第39次)	洪積台地	3700	弥生時代後期	竪穴住居4棟	3	1	大型土坑はW-SK01土器棺墓？を含む。竪穴住居などとの重複あり。	村木誠編2003「埋蔵文化財調査報告書46高蔵遺跡(第34次・第39次)」『名古屋市文化財調査報告60』名古屋市教育委員会
愛知県	稲沢市	堀之内花ノ木遺跡	沖積微高地	7100	弥生時代後期	竪穴住居9棟	2		1基は竪穴住居と重複していてSB53より新しい。	蟹江吉弘1994「堀之内花ノ木遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第52集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	一宮市	三ツ井遺跡	沖積微高地	12100	弥生時代後期	竪穴住居2棟	0	1		田中伸明・鬼頭剛編「三ツ井遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第87集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	甚目寺町	阿弥陀寺遺跡	沖積微高地	約15000	弥生時代後期	竪穴住居1棟、溝7条	12	4	大型土坑は井戸状の土坑7基含む。	石黒立人編1990「阿弥陀寺遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第11集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	清洲町他	朝日遺跡	沖積微高地	約50000	弥生時代後期	竪穴住居22棟(南部)	1（西部） 50（南部） 0（東部） 0（北部）	0（西部） 11（南部） 0（東部） 0（北部）	大型土坑の内、南部の9基は複数時期。中型土坑の内、南部の1基は複数時期。規模不明土坑が、28(南部)＋1(北部)。	石黒立人編1991「朝日遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第30集』財団法人愛知県埋蔵文化財センター
三重県	松阪市	上寺遺跡	河岸段丘	約5500	弥生時代後期	竪穴住居1棟（他1棟）	0	0		下村登良男編1981「上寺遺跡発掘調査報告書」『松阪市文化財調査報告5－2』松阪市教育委員会
三重県	明和町	金剛坂遺跡	河岸段丘縁辺	約900	弥生時代後期	方形周溝墓2基	0	0		山沢義貴・谷本鋭次1971「金剛坂遺跡発掘調査報告」明和町教育委員会
三重県	松阪市	小谷赤坂遺跡(第8次)	丘陵上	2560	弥生時代後期	竪穴住居9棟、掘立柱建物1棟	20	10	南地区。大型土坑は弥生時代とされるもの。竪穴住居とは2基重複・隣接する。中型土坑は竪穴住居の貯蔵穴のほとんど。	伊藤裕偉編2005「天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告Ⅶ」『三重県埋蔵文化財調査報告260』三重県埋蔵文化財センター
三重県	松阪市	小谷赤坂遺跡(第6次・7次)	丘陵上	3100	弥生時代後期	竪穴住居9棟、掘立柱建物2棟、方形周溝墓1基	2	4以上	大型土坑は重複しない。竪穴住居周辺にある。	伊藤裕偉編2005「天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告Ⅵ」『三重県埋蔵文化財調査報告259』三重県埋蔵文化財センター
三重県	津市	野田遺跡群柳谷地区	丘陵上	約1000	弥生時代後期	竪穴住居5棟	0			浅生悦生1974「野田遺跡群発掘調査報告」『津市埋蔵文化財調査報告8』津市教育委員会
三重県	津市	野田遺跡群大ヶ瀬B遺跡	丘陵上	約800	弥生時代後期	竪穴住居3棟	1		重複しない	浅生悦生1974「野田遺跡群発掘調査報告」『津市埋蔵文化財調査報告8』津市教育委員会
三重県	玉城町	月よべ遺跡	丘陵の裾部	384	弥生時代後期	方形周溝墓3基	0	0		三重県教育委員会1979「度会郡玉城町月よべ遺跡」『昭和48年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財調査報告』
三重県	四日市市	大谷遺跡	洪積台地	約2700	弥生時代後期	竪穴住居12棟	1	1		小玉道明他1966「大谷遺跡発掘調査報告書―A地区・B地区―」『四日市市埋蔵文化財調査報告2』四日市市教育委員会・四日市遺跡を守る会、小玉道明1976「大谷遺跡発掘調査報告Ⅱ―C地区の遺構―」『四日市市埋蔵文化財調査報告11』四日市市教育委員会、伊藤洋1977「大谷遺跡発掘調査報告Ⅲ―C地区の遺物―」『四日市市埋蔵文化財調査報告14』四日市市教育委員会
三重県	四日市市	西ヶ広遺跡	洪積台地上	約4000	弥生時代後期		1	3	大型土坑は竪穴住居状のものSK107。不整方形、一辺2.5～3.0m。柱穴、炉なし。平底。深さ15cm。中型土坑は弥生土器出土。古墳時代後期は竪穴住居10棟、土坑15ヶ所（全て大型のもの）。	小玉道明他1970「6.西ケ広遺跡」『東名阪道路埋蔵文化財調査報告』日本道路公団名古屋支社・三重県教育委員会、小玉道明他1972『西ケ広遺跡発掘調査報告―D地区―』四日市市教育委員会
三重県	四日市市	永井遺跡	台地上	約2800	弥生時代後期	竪穴住居19棟	0	0	弥生時代後期は不明、土坑の報告なし。	小玉道明他1973「永井遺跡発掘調査報告」四日市市教育委員会
愛知県	名古屋市	三王山遺跡	洪積台地		弥生時代後期～	竪穴住居10棟				服部哲也1991「三王山遺跡発掘調査の概要」名古屋市教育委員会
三重県	伊勢市	隠岡遺跡	上位段丘	2500	弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭　廻間Ⅰor前半入るか？	竪穴住居22棟以上	0	0	大型中型土坑は報告ではない。平安時代後半の遺構が多く不明。	岩中淳之編1987「隠岡遺跡発掘調査報告」『伊勢市文化財調査報告5』伊勢市教育委員会
愛知県	豊田市	高橋遺跡(第9次)	洪積台地	1200	弥生時代後期～古墳時代前期初頭	竪穴住居17棟（寄道8棟、欠山9棟）	2		大型土坑は特殊遺構1を含む。土器焼成坑の指摘あり。〈後期〉	谷沢良光1979「高橋遺跡第九次発掘調査概報」『豊田市郷土資料館報告17』豊田市教育委員会
愛知県	春日井市	町田遺跡	沖積微高地	9882	弥生時代後期～古墳時代前期初頭	竪穴住居25棟、方形周溝墓3基（弥生時代中期後葉）、他にSD03	6以上	1以上	土坑は23基あるが半分以上古代以後。SK33がSB07を切っている。SK45がSB22により切られている。住居に伴うものがSB16。土坑数は後期以後も主体。他は住居の周辺に多い。	神谷友和編1989「町田遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第9集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	名古屋市	見晴台遺跡　西側地区	洪積台地		弥生時代後期～古墳時代前期前半	SB55棟	1			伊藤厚史・野口泰子1993「見晴台遺跡発掘調査報告書一遺構編一」名古屋市見晴台考古資料館
愛知県	名古屋市	見晴台遺跡　中央地区	洪積台地		弥生時代後期～古墳時代前期前半	SB104棟	7		大型土坑の内2基は中世？	伊藤厚史・野口泰子1993「見晴台遺跡発掘調査報告書一遺構編一」名古屋市見晴台考古資料館
愛知県	名古屋市	見晴台遺跡　東側地区	洪積台地		弥生時代後期～古墳時代前期前半	8棟	6			伊藤厚史・野口泰子1993「見晴台遺跡発掘調査報告書一遺構編一」名古屋市見晴台考古資料館
愛知県	名古屋市	見晴台遺跡　北側地区	洪積台地		弥生時代後期～古墳時代前期前半	3棟	3		大型土坑は縄文時代晩期の可能性あり。	伊藤厚史・野口泰子1993「見晴台遺跡発掘調査報告書一遺構編一」名古屋市見晴台考古資料館
三重県	松阪市	川原表B遺跡	丘陵斜面	約2000	弥生時代後期初頭	竪穴住居6棟	0		住居内の壁際土坑1基（長径1mをこす）	西田尚史・福田昭1990「中部平成台団地埋蔵文化財発掘調査報告書」松阪市教育委員会
愛知県	一宮市	八王子遺跡	沖積微高地	23740	弥生時代後期前葉・後葉	（前葉）竪穴住居28棟、掘立柱建物1棟、（後葉）竪穴住居7棟	58		大型土坑は12基＋46基（古墳時代前期を含む）。Hb区では竪穴住居と多数重複あり	樋上昇編2001「八王子遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第92集』財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
三重県	朝日町	辻子遺跡	丘陵開谷部	22808	弥生時代後期前半	竪穴住居7棟、水田2群15筆	8		大型土坑は竪穴住居内貯蔵穴2基含む。SH4・5周辺に集中するが遺構重複しない。	穂積裕昌・角正淳子編2004「辻子遺跡発掘調査報告」『三重県埋蔵文化財調査報告227－6』三重県埋蔵文化財センター
三重県	松阪市	堀町遺跡	沖積平野微高地	14926	弥生時代後期前半	掘立柱建物4棟（遺構の削平を受けている。集落の中心部と外にもある。）	14	0	大型土坑の内1基は井戸SE327。掘立柱建物とは重複しない。	小濱学他「堀町遺跡」『三重県埋蔵文化財調査報告123－7』三重県埋蔵文化財センター

県名	市町村名	遺跡名	立地	調査面積(㎡)	時期	竪穴住居等	大型土坑	中型土坑	備考	文献
愛知県	一宮市	山中遺跡	沖積微高地	4800（4次と5次併せて）	弥生時代後期～廻間式	方形周溝墓10基	16	2	大型土坑はSZ10・SZ11とSZ13の内部主体として検出されている。他にSZ10に楕円形の土坑5～6基。中型土坑はSZ10のマウンドから。	石黒立人編1993「山中遺跡Ⅱ」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第45集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
三重県	松阪市	村竹コノ遺跡　第3次	沖積微高地	1500	弥生時代後期～廻間式	竪穴住居11棟（方形）	1		大型土坑は井戸。	三重県埋蔵文化財センター2005『一般国道42号バイパス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター 三重県埋蔵文化財センター2005「村竹コノ遺跡（第3次）発掘調査現地説明会資料」三重県埋蔵文化財センター
三重県	松阪市	村竹コノ遺跡　第2次B2区	沖積微高地		弥生時代後期～廻間式	竪穴住居3棟	4		大型土坑は新しい時代のものもあるか。	三重県埋蔵文化財センター2005『一般国道42号バイパス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター 三重県埋蔵文化財センター2005「村竹コノ遺跡（第3次）発掘調査現地説明会資料」三重県埋蔵文化財センター
愛知県	春日井市	勝川遺跡　上屋敷地区			弥生時代後期末～古墳時代前期	方形周溝墓22基	0	0		赤塚次郎編1984「勝川」『愛知県教育サービスセンター埋蔵文化財調査報告書第1集』財団法人愛知県教育サービスセンター、松原隆治編1988「勝川遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第3集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター、松原隆治編1992「勝川遺跡Ⅱ」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第19集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター、樋上昇編1992「勝川遺跡Ⅳ」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第29集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	春日井市	勝川遺跡　南東山地区			弥生時代後期末～古墳時代前期	竪穴住居8棟	5以上		大型土坑は時期不明	
愛知県	名古屋市	三王山遺跡	丘陵上	4900	弥生時代後期末～古墳時代前期初頭	竪穴住居7棟、方形周溝墓	2	5		村木誠編1999「三王山遺跡(第1～5次)」『名古屋市文化財調査報告40』名古屋市教育委員会
三重県	伊勢市	野垣内遺跡	河岸段丘縁辺	1000	弥生時代後期末～古墳時代前期初頭	竪穴住居21棟、土器棺墓1基、方形周溝墓4基	0	0		三重県教育委員会1974「伊勢市上地町野垣内遺跡」『昭和48年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財調査報告』
愛知県	清洲町	廻間遺跡	沖積微高地	11591	弥生時代後期末～古墳時代前期前半	竪穴住居75棟、墳丘墓5基	21	3	大型土坑の内2基は井戸（竪穴住居と分布は重複あり）。土坑9基は墳丘墓SZ01に隣接し、14基は竪穴住居と分布・隣接・重複する。土器集積4基は含まず。あまり重複しない。	赤塚次郎編1990「廻間遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第10集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
岐阜県	関市	砂行遺跡	丘陵斜面	11250	弥生時代後期末～古墳時代前期前半	竪穴住居53棟、掘立柱建物1棟	0？　不明	0？		成瀬正勝編2000「砂行遺跡」『岐阜県文化財保護センター調査報告書第65集』財団法人　岐阜県文化財保護センター
三重県	名張市	城屋敷遺跡	河岸段丘	2000	弥生時代後期末～古墳時代前期前半、廻間Ⅱ式位まで	竪穴住居8棟	0	0		門田了三1985「城屋敷遺跡」名張市教育委員会
愛知県	一宮市	三ツ井遺跡	沖積微高地	12100	古墳時代前期後半		1		大型土坑は井戸で、溝とセットになる。	田中伸明・鬼頭剛編「三ツ井遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第87集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	豊田市	南山畑遺跡	洪積台地	7220	古墳時代前期初頭	竪穴住居19棟、掘立柱建物2棟、方形周溝墓1基	3	1	大型土坑は性格不明遺構含む。SK17が1基のみ重複する。他は竪穴住居の周辺5m内外に分布する。中型土坑は性格不明遺構。	天野博之編1999「南山畑遺跡」『豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書第10集』
愛知県	豊田市	高橋遺跡(第1次～第3次)	洪積台地		古墳時代前期初頭	竪穴住居28棟	1		大型土坑は住居との重複はない。中型土坑で竪穴住居の貯蔵穴がある。	豊田市郷土資料館編1971「高橋遺跡」豊田市教育委員会
愛知県	豊田市	高橋遺跡(第4次)	洪積台地	3240	古墳時代前期初頭	竪穴住居13棟	0		中型土坑で竪穴住居の貯蔵穴がある。	久永春男・斎藤嘉彦他1969「高橋遺跡」豊田市教育委員会
愛知県	豊田市	高橋遺跡(第6次)	洪積台地	660	古墳時代前期初頭	竪穴住居5棟	0		中型土坑で竪穴住居の貯蔵穴がある。	豊田市郷土資料館・豊田市郷土史研究会編1976「高橋遺跡第六次調査概報」『豊田市郷土資料館報告11』豊田市教育委員会
愛知県	豊田市	高橋遺跡(第7次)	洪積台地	1800	古墳時代前期初頭	竪穴住居6棟以上	0		中型土坑で竪穴住居の貯蔵穴がある。	松井孝宗1977「高橋遺跡第七次発掘調査概報」『豊田市郷土資料館報告12』豊田市教育委員会・豊田市郷土史研究会
愛知県	豊田市	高橋遺跡(第8次)	洪積台地	1390	古墳時代前期初頭	竪穴住居4棟以上	1		中型土坑で竪穴住居の貯蔵穴がある。	松井孝宗1978「高橋遺跡第八次発掘調査概報」『豊田市郷土資料館報告15』豊田市教育委員会
愛知県	名古屋市	高蔵遺跡(第34次・第39次)	洪積台地	3700	古墳時代前期初頭	竪穴住居4棟	0	0		村木誠編2003「埋蔵文化財調査報告書46高蔵遺跡(第34次・第39次)」『名古屋市文化財調査報告60』名古屋市教育委員会
愛知県	清洲町	土田遺跡	沖積微高地	約8000	古墳時代前期初頭	墳丘墓9基	42		方形周溝墓に隣接する。SK71がSZ09と重複するか？	赤塚次郎編1987「土田遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第2集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	一宮市	八王子遺跡	沖積微高地	23740	古墳時代前期初頭	竪穴住居59棟(廻間Ⅰ式)＋8棟(廻間Ⅱ式)、掘立柱建物8棟、区画溝あり	72		大型土坑は26基＋46基（弥生時代後期を含む）	樋上昇編2001「八王子遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第92集』財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
三重県	玉城町	仲垣内遺跡	丘陵の裾部	400	古墳時代前期初頭	竪穴住居1棟	0	0		三重県教育委員会1979「度会郡玉城町仲垣内遺跡」『昭和48年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財調査報告』
愛知県	清洲町他	朝日遺跡	沖積微高地	約50000	古墳時代前期初頭(Ⅵ～Ⅶ期)	竪穴住居6棟＋9棟(古墳時代)(南部)＋1棟(東部)	0 (西部) 23 (南部) 9 (東部) 0 (北部)	0 (西部) 6 (南部) 1 (東部) 0 (北部)	規模不明土坑が、12(南部)＋3(東部)。内、南部の5基は複数時期。	石黒立人編1991「朝日遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第30集』財団法人愛知県埋蔵文化財センター
三重県	玉城町	勝田遺跡	洪積台地縁辺	500	古墳時代前期初頭、廻間Ⅰ～Ⅱ式	竪穴住居2棟	0	0		倉田直純・東浩成1988「勝田遺跡発掘調査報告」『三重県埋蔵文化財調査報告82』三重県教育委員会
三重県	津市	中鳶遺跡	洪積台地	420	古墳時代前期初頭、廻間Ⅰ式	竪穴住居1棟	0	0		萱室康光1977「中鳶遺跡発掘調査報告」『津市埋蔵文化財調査報告14』津市教育委員会
三重県	伊勢市	中楽山遺跡A地区	低位丘陵上	試掘グリッド	古墳時代前期初頭、廻間Ⅰ式	竪穴住居2棟	2		大型土坑は未完掘。重複なし。	下村登良男1973「伊勢市上地町・中楽山」『昭和47年度県営圃場整備地域埋蔵文化財調査報告4』三重県教育委員会
三重県	玉城町	赤垣内遺跡	丘陵の裾部	750	古墳時代前期初頭主体	竪穴住居8棟、掘立柱建物1棟	0	0		三重県教育委員会1979「度会郡玉城町赤垣内遺跡」『昭和48年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財調査報告』
愛知県	名古屋市	名古屋城三の丸遺跡Ⅰ	洪積台地	9000	古墳時代前期初頭～前期前半	竪穴住居23棟、方形	58		弥生時代中期～古代までの土坑100基の内大型土坑58基	梅本博志編1990「名古屋城三の丸遺跡（Ⅰ）」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第15集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	稲沢市	堀之内花ノ木遺跡	沖積微高地	7100	古墳時代前期前半	溝1条	1			蟹江吉弘1994「堀之内花ノ木遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第52集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	尾西市	西上免遺跡	沖積微高地	10568	古墳時代前期前半	竪穴住居1棟、　墳丘墓5基、溝5条、水田15筆	3		竪穴住居は廻間Ⅱ式。大型土坑は墳丘墓と重複する。住居とは重複しない。	赤塚次郎編1997「西上免遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第73集』財団法人　愛知県埋蔵文化財センター
三重県	四日市市	上野遺跡	河岸段丘	3496	古墳時代前期前半、廻間Ⅱor後半	竪穴住居11棟	0	0		春日井恒1991「上野遺跡」『四日市市遺跡調査会文化財調査報告書Ⅵ』四日市市遺跡調査会
三重県	津市	中鳶遺跡	洪積台地	420	古墳時代前期前半、廻間Ⅱ式	竪穴住居3棟	0	1	他に数基の土坑あり。	萱室康光1977「中鳶遺跡発掘調査報告」『津市埋蔵文化財調査報告14』津市教育委員会
三重県	津市	新畑遺跡A地区	丘陵上	700	古墳時代前期前半、松河戸Ⅱ式	竪穴住居9棟（内1棟は円形周溝遺構）	5	5～6	大型土坑の内3基が竪穴住居2棟と重複している。中型土坑は竪穴住居内の壁際土坑4～5基を含む。	吉村利男1973「新畑遺跡発掘調査報告」『津市埋蔵文化財調査報告7』新畑遺跡発掘調査団